

バス停からの 小さな旅



13 バス停「中切公民館(さとやま線)」から 星宮神社で絵を眺める旅

中切公民館のバス停から川沿いの道を北へ進むと、のどかな田畑の風景が広がります。その奥にある山の林の陰に「星宮神社」があります。この名前は、かつて生えていた杉のこずえの間から見える空が、星影のように見えたことに由来すると伝えられています。

この神社の拜殿には、伊深出身の日本画家・大矢峻嶺(おおやしゅんりょう、1892～1967年)が描いた絵が掛けられています。幼い頃から絵を描くことが得意だった峻嶺は、19歳で京都に赴き、日本画壇の巨匠・竹内栖鳳(たけうちせいほう)の内弟子となります。修練を積んだ峻嶺は画家となり、極めて細かな写生を基とした確かな技法で、花鳥画や風景画を描きました。後年、峻嶺は度々、岐阜に戻って絵を描いたため、伊深地区には今も作品が多く遺されています。

星宮神社の絵は1943(昭和18)年に奉納されたもので、年月が経ち、絵具が薄れていますが、山肌の青色はとても印象的で、雲海から姿を現す富士の描写は神々しく、雄大です。清浄な神社の空気と相まって、心を穏やかに鎮めてくれるような不思議な力を宿しています。



▲のどかな道沿いにある星宮神社のたたずまい



今回乗車したバス

行き さとやま線

・左回り3便

帰り さとやま線

・右回り4便

09時24分 美濃太田駅北口

09時48分 中切公民館

下車後、のどかな風景を楽しみながら道を北上し、杉林の中の星宮神社を散策。

11時48分 中切公民館

12時13分 美濃太田駅北口



▲境内に納品されている絵